



シリーズ
企業訪問

藤田建設工業株式会社

～「仕事は仕事でとれ」の精神で
お客様に満足を提供する企業～

企業概要

代表者：藤田 光夫

所在地：東白川郡棚倉町大字棚倉字南町20

資本金：9,036万円

従業員：180名

設立：1952年2月

TEL：0247-33-2281

FAX：0241-24-5032

URL：<http://www.fujitakk.com>

事業概要：総合建設業



代表取締役社長

藤田 光夫 (ふじた みつお)

私たちは普段、特に意識することもなく道路やトンネルなどを通り、快適な時間を過ごしてきました。しかし、これまで当然のように思っていたことでも、東日本大震災を経験したことにより、そのありがたみを実感された人は多いのではないのでしょうか。私たちが得られる快適さの裏側では、必ず高度な技術力に裏打ちされた工事が行われています。

そこで今回は、総合建設業としてお客様に喜ばれる仕事を徹底している藤田建設工業株式会社を訪ね、藤田社長より経営に対する思いや事業展開などについて話をうかがいました。

◆創業の経緯についてお聞かせください

製材業や木炭車の燃料製造販売など、色々な職業を経験した私の父が、昭和25年に藤田建設工業所として創業したのが当社の始まりです。戦後復興のための社会資本整備に対する要求が高まる中、建設業が必要であると強く考え、創業しました。

昭和27年には藤田建設工業株式会社を設立、私の母を含め4人の社長を経て、平成17年に5代目の社長に就任しました。

大学1年の時に父が亡くなり、卒業と同時に

入社し父の後を継いだ母を支えていくこととなりました。

◆現在の事業内容についてお聞かせください

当社は公共土木工事、民間土木工事、建築工事、戸建住宅、管工事を行っています。それぞれの完工高は毎年上下変動しますが、公共土木工事が5割程度と最も大きなウェイトを占めています。

民間戸建住宅は「e.home」と名付け、力を入れている部門です。「e」はecology(環境)、energy・economy(省エネ・経済性)、entertainment(遊



本社社屋

び心・デザイン性)に関連づけており、自然素材にこだわり、住む人に豊かさと幸せを感じていただける住宅建設を目指しています。地方のゼネコンでは木造住宅建築部門はなかなかうまくいかないというのが一般的な認識ですが、地道な営業活動を行うことで、その良さを理解してもらえよう努めています。

◆経営理念についてお聞かせください

「誠実で信頼され活力ある職場を目指し、お客様のために最大の努力を惜しまない」が当社の経営理念です。これは創業当時から貫かれています。

当社の社是である「仕事は仕事でとれ」という言葉にはそのすべてが集約されており、責任を持って最後まで仕事をやり遂げることが次の仕事にも結びついています。

◆人材育成への取り組みについてお聞かせください

当社には、社員180名のうち土木施工管理技士、建築士など1級技術者が70名、2級技術者が42名います。社員の間でも2級は当然で1級を目指すという意識が浸透しています。資格を取得することで本人の意識も高まり、お客様から信頼され喜ばれる仕事につながるものと考えていますので、会社としても資格手当等の制度により、資格取得を積極的に応援しています。

さらに、人材の採用についても毎年継続することで世代間の断絶をつくらず、技術などの伝承

を円滑に行っています。リーマン・ショックの影響で県内経済も厳しい時がありましたが、人員削減は行わず、採用を増やしてきました。

また、採用後の育成は、新人1人に2人の中堅社員を研修担当として付け、関連企業などでも経験を積ませています。

◆子育て支援にも積極的に取り組んでおりとお聞きしました

平成20年に「福島県第一期次世代育成企業・仕事と生活の調和推進企業」として認定されました。

これは過去3年に出産した女子社員の育児休業取得者率100%、女性労働者の役職者への登用、などの実績が認められたものです。

当社では従来から仕事と子育ての両立に取り組んでおり、社長以外に常務にも女性を登用するなど、男女隔てなく活躍する社風が根付いています。

平成21年には、育児休業や育児のための勤務時間短縮などの基準をクリアし、次世代育成支援対策推進法に基づく「基準適合一般事業主」の認定を受けました。県内で4番目、建設業者としては当社が最初の認定となりました。

◆戸建住宅では優れた断熱方法を採用しているとお聞きしました

戸建住宅に使用しているものが、経年劣化や性能の劣化がない断熱材で、「アイシネン」と呼ば



真名畑トンネル (塙町)



国道118号線バイパス改築工事 (棚倉町)

れています。大気中の水分によって泡のように膨らませ、家全体を隙間なく包み込みます。水で発泡し99%が空気のできた素材を現場で吹き付けるもので、地震や台風でも剥がれる心配がありません。水と風は通さないが水蒸気は通すという理想的な機能を持った断熱材で、年数が経過しても断熱性能が落ちたり、隙間が生じたりすることはありません。

この断熱材は震災被災者のために当社で建設した仮設住宅にも使用しています。従来の軽量鉄骨プレハブ仮設住宅とは異なり、木造建築で「生活が快適となるように」との仕様をしています。

当社が施工したものと部材供給で265戸の仮設住宅建設に携わり、今後さらに136戸分の部材を供給する予定です。

◆東日本大震災発生後の対応についてお聞かせください

震災発生当初は、各々の現場の状況確認を行い、管内パトロールを実施し、崩れている箇所にはバリケード設置を行うなど、2次災害発生防止に努めました。物流面で特に重要な国道4号線については、当社も震災直後から対応し早期復旧を目指しました。

鉄道関連工事に特化している水戸営業所は、今回の震災で大きな被害を受けた水戸駅、水郡線・常磐線の復旧作業に地元業者とともに協力し、震災翌月の4月には水郡線が復旧できました。

◆今後の事業展開についてお聞かせください

震災の発生により、様々な公共インフラが破壊されました。今後当面は公共工事の需要が高まると考えており、公共土木工事を核としながら、



磐越自動車道・沼の倉橋（三春町）



こづちのいえ

建築工事にも取り組んでいきます。

また、民間戸建住宅部門である「e.home」は、自分たちの努力で伸ばすことができるものであり、拡充を図りたいと考えています。住宅建設には地元の木材を有効活用しており、今後も継続することで地産地消につながるものと考えています。

今回の震災において、当社の建設した住宅では室外機の傾斜等の被害はありましたが、建物本体の被害はありませんでした。噂を聞きつけ福島市から白河のモデルハウスを見に来るお客様もいらっしゃいました。これからも「仕事は仕事でとれ」の精神で、お客様に満足してもらえる良いものを提供していきたいと考えています。

【インタビューを終えて】

東日本大震災を経験した後ということもあり、安全・安心と快適さの重要性を強く感じながら藤田社長の話をうかがいました。

これまで優良建設工事などの表彰を数多く受けている裏には、創業以来貫かれている「仕事は仕事でとれ」の精神が根付いており、徹底したプロ意識があることがわかりました。

お客様の目線に立ち、満足いただけるものを提供すること、またそのために社員が働き甲斐のある職場にすることを求め続けていることが当社発展の根幹にあることを実感するとともに、今後の更なる飛躍を確信する取材となりました。

（担当：木村）